

活動を支えていただける皆さまへ

日本赤十字社のご案内



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

寄付するあなたも赤十字です

赤十字 寄付



日本赤十字社

日本赤十字社 @JRCS_PR

japaneseredcross_official

JapaneseRedCrossPR



危機を前に、人は弱い。
でも、
危機を前に、人は強い。



救いを託されている。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社に
ご支援いただき、
まことにありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症との戦いは2年を超えました。

コロナ禍で何より憂慮されるのは、社会における“分断”です。

ウイルスへの恐怖がいわれない偏見と差別を生み、

時には医療スタッフなどに対し、心ない言葉が投げかけられたことも
ありました。しかし、それらをはるかにしのぐ多くの方々から、

応援の声と心のこもったお力添えをいただいたことも事実です。

私たちはこの経験を通じ、「新型コロナウイルスに立ち向かうために
必要なのはワクチンや薬だけではない。この“人びとが支えあう力”が
最大の武器となるのだ」と気づかされました。“分断”を乗り越える
“連帯”こそが、我々が手に入れるべきものだと思うのです。

現在、私たちが直面する課題は、コロナのような感染症に限りません。

様々な人道問題が国境を越えて拡大し、“変異”を続けています。

日本赤十字社は、これからも世界の仲間たちと手を携え、
地道に活動を続けてまいります。

日本赤十字社 社長

大塚義治

赤十字をはじめて知る方へ



Q. 赤十字って何をしているの？

A. 赤十字は、国内外の**災害(地震や台風など)現場に駆けつけ、いのちを救うための医療や看護の支援に加え、感染症への対応**も行っています。

Q. 誰が活動しているの？

A. 普段は赤十字の病院に勤めている**医師・看護師・助産師・薬剤師**や赤十字の活動に賛同する**ボランティア**などが駆けつけます。



Q. 赤十字は税金で活動しているのですか？

A. いいえ、赤十字の活動のほとんどが**皆さまからのご寄付により支えられており**、救護班の育成や救援物資をお配りするための費用に役立てられています。





コロナ禍での赤十字の活動

国内救護活動 ▶ P5

地震や台風など自然災害の現場に駆けつけ、感染症対策を行いながら救護活動を実施します。



国際活動 ▶ P7

海外で発生した災害や紛争、感染症等の病気で苦しむ人びとを救うため、救援や復興支援、予防活動に取り組みます。



ボランティアなどの育成 ▶ P8

全国の赤十字ボランティアや青少年赤十字メンバーが感染防止に配慮しながら、地域に貢献しています。



救急法などの普及 ▶ P8

感染防止に配慮しながら、身近な人を救うための知識と技術の普及を行います。



危機を前に、人は弱い。
でも、
危機を前に、人は強い。

災害や感染症の脅威が訪れた時。

人は不安になる。恐怖に怯える。

けれど、人は励まし合い、前に進むことができる。

私たちは知っています。

大切な人を守ろうとする姿を。

災害に立ち向かおうとする人たちの強さを。

そんな思いに応えて、ともに乗り越えていくために。

災害の現場で、赤十字の医師・看護師・ボランティアが活動をつづけます。

——— 救うを託されている。あなたとともに。

※医療事業、血液事業、社会福祉事業は、それぞれ診療報酬や血液製剤の供給収益、介護保険収入などを主な財源として活動しております。

あなたのご寄付で実現した 国内救護活動



令和3年7月大雨災害

[令和3年7月]

梅雨前線などの影響により、東海地方や関東地方などでは記録的大雨となり、特に静岡県熱海市においては、土石流が発生しました。発災直後から関係機関と連携し、県内各地の避難所等での救護活動や健康観察、こころのケア活動などを実施したほか、義援金を受け付けました。

主な実績

[救護物資の配布]

毛布	287枚	タオルケット	339枚
緊急セット	95セット	ブルーシート	57枚
タオルセット	386セット	見舞い品セット	39セット
下着セット	1,036セット		

[職員の派遣]

・救護班	1班6名	・連絡調整員	25名
・日本DMAT	8名	・こころのケアチーム	9チーム77名

[赤十字ボランティアの活動]

・ボランティア活動	344名
-----------	------



令和3年8月大雨災害

[令和3年8月]

停滞する前線の影響により、九州北部や中国地方などに大雨特別警報等が発令され、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。発災直後から関係機関と連携し、佐賀県内各地の避難所等での救護活動や避難所等の状況調査を実施したほか、義援金を受け付けました。

主な実績

[救護物資の配布]

毛布	485枚	緊急セット	377セット
安眠セット	387セット	タオルセット	430セット
バスタオル	72枚	タオルケット	119枚

[職員の派遣]

・救護班等	19名
・連絡調整員	29名
・日赤災害医療コーディネートチーム	3名

[赤十字ボランティアの活動]

・ボランティア活動	21名
-----------	-----



令和3年台風第9号等 大雨災害

[令和3年8月]

台風第9号から変わった温帯低気圧の影響で、特に青森県では土砂災害や河川の氾濫、橋の崩落などが発生しました。発災直後から関係機関と連携し、職員の派遣や物資の配布を実施したほか、義援金を受け付けました。

主な実績

[救護物資の配布]

毛布	77枚	緊急セット	65セット
安眠セット	40セット	タオルケット	33枚

[職員の派遣]

・連絡調整員	18名
--------	-----

あなたのご寄付で実現した 国際活動



バングラデシュ 南部避難民支援

2017年8月にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為を逃れ、多くの避難民が隣国バングラデシュに流入したアジア最大の人道危機。今も約88万人の避難民が、仮住まいの簡素な家屋で先の見えない生活を送っています。日本赤十字社は、コロナ禍においても感染症対策を講じながら診療活動、母子保健、地域保健活動、心理社会的支援を継続しています。

主な活動実績

診療した患者数	39,463人
母子保健サービス提供数	3,909人
地域保健活動(家庭訪問数)	92,215回
心理社会的支援受益者数	23,224人

(※2020年1月～2021年10月)



中東人道危機救援

2011年から続くシリア紛争は、未だに1,200万人が避難生活を続けており、「第二次世界大戦以降最悪の人道危機」とも言われています。日本赤十字社は2015年より、イエメン、イラク、シリア、パレスチナ、レバノンで難民・避難民を対象とした中長期的な人道支援に取り組んできました。コロナ禍においても感染症対策を講じながら、現地の人々に寄り添った支援を継続しています。

主な活動実績

- ・トイレや水タンクなどの衛生設備の整備や子どもたちへの衛生教育
- ・医療サービスの技術向上支援
- ・パレスチナ・ガザ地区での武力衝突激化への対応
(物資配布支援、心理社会的支援)

あなたのご寄付で実現した ボランティアなどの育成/救急法などの普及



ワクチン集団接種会場 での奉仕団の協力

全国に約117万人いる赤十字ボランティアは、新型コロナウイルス感染症を乗り越えるために活動しています。令和3年春先から自治体により設置されたワクチン接種会場で、赤十字ボランティア延べ2,400人がワクチン接種が滞りなく進むよう活動を行いました。



「まもるいのち ひろめるぼうさい」を 使ったオンライン授業

全国に約350万人いる青少年赤十字メンバーは、コロナ禍においても感染防止に配慮しながら、地域貢献活動を続けています。担当職員が、青少年赤十字加盟校向けに、オンラインを活用した講座や感染対策をしたうえでの出張授業等を実施している支部もあります。



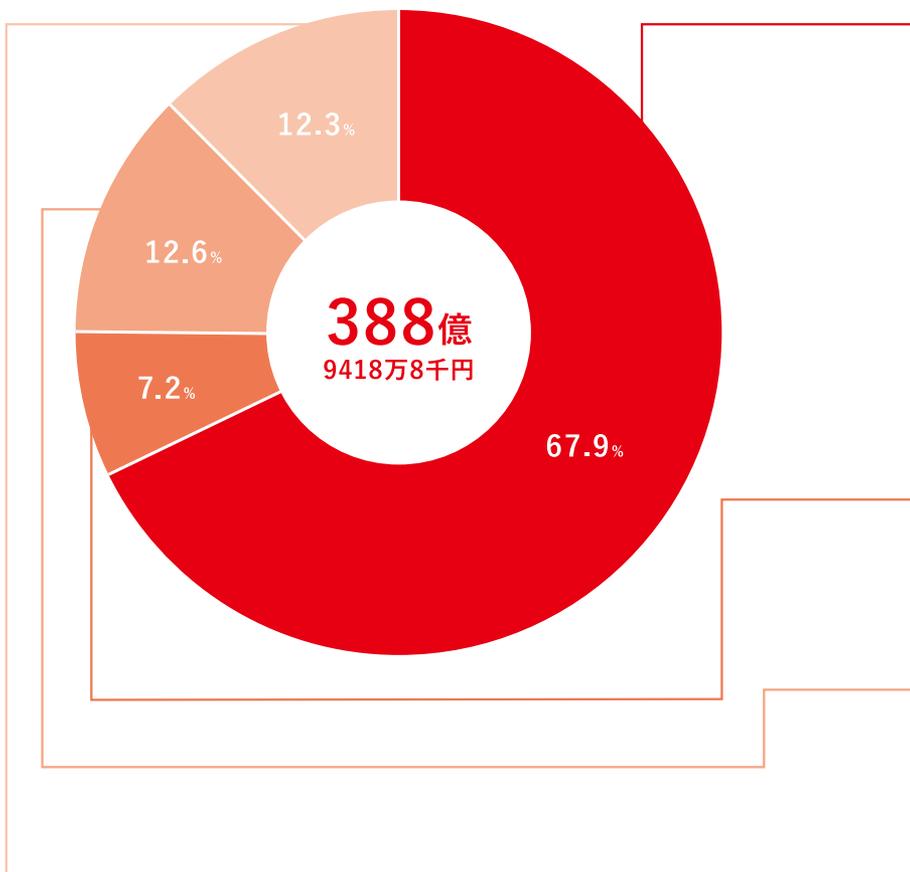
「クロス体操」による 健康生活支援講習

コロナ禍における外出自粛や新しい生活様式の中で、筋力低下や生活習慣病、気分の落ち込みなどが問題になっています。これらの社会的ニーズに着目し、音楽に合わせて軽い運動を楽しめる動画「クロス体操」を作成しました。この動画を地域包括ケアの一環として「健康生活支援講習」で活用するほか、豪雨災害被災地の仮設住宅の皆さんと体操を実施するなど、活用の場を広げています。

ご寄付の活かし方

令和2年度 歳出(一般会計)の報告

国内外で苦しんでいる
人びとを救うため、
皆さまから託されたご寄付を
活用しています。



苦しんでいる人びとを救うための費用

263億9028万3千円

国内外における救護活動

国内災害対応や国際活動、
復興支援などに使われた費用です。



防災活動

防災イベント・セミナーなどに
使われた費用です。



感染症に対する活動

新型コロナウイルス感染症対策の
ために使われた費用です。



ボランティアの育成

ボランティアの育成や活動に
使われた費用です。

広報活動のための費用 | 27億9788万7千円

広報・普及活動

会員への参加呼びかけや広報活動、寄付の募集のために
使われた費用です。

事務のための費用 | 49億437万5千円

事務管理

支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能として、施設負担を
除いた事務経費に使われた費用です。

その他の費用 | 48億163万8千円

次年度の活動

次年度当初の活動のために使われる資金です。

あなたのご寄付でできること



皆さまからのご支援は、赤十字のさまざまな活動や救援物資の購入などにカタチを変えて、緊急時に寄り添います。

2,000円 ▶ 感染症防護具 / 約2人分

感染症まん延状況下で救護活動を実施する際に必要な防護具(マスク、フェイスシールド等)約2人分を備えることができます。



3,000円 ▶ 安眠セット / 1人分

避難先での生活を少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



5,000円 ▶ 緊急セット / 1セット4人分

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが一式収納された「緊急セット」を1セット(4人分)備えることができます。



10,000円 ▶ 心肺蘇生トレーニングキット / 6人分

新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の救急法講習プログラムを実施することができません。簡易版「心肺蘇生トレーニングキット」を整備することで、感染対策に配慮した講習を実施することができます。



25,000円 ▶ 心肺蘇生訓練人形 / 1体

日本では、7分に1人が心臓突然死で亡くなっています。突然の心停止に陥った人を救う「心肺蘇生」を学ぶための器具「心肺蘇生訓練人形」を整備することができます。



100,000円 ▶ 訓練用AED / 1台

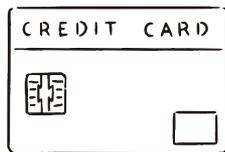
心停止から5分以内に電気ショックを行うことで、いのちを救える可能性は高まります。「AED」の使用方法を学ぶための器具「訓練用AED」を整備することができます。



寄付するあなたも赤十字です 日本赤十字社へのご寄付の方法

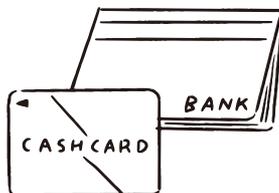
クレジットカードで寄付

Webサイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。



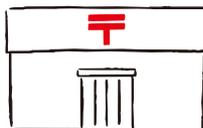
郵便局・銀行の口座振替で寄付

ご希望の口座から自動引き落としでご寄付いただけます。お申込みには「会員加入申込書」をお送りください。ご寄付の頻度は毎年・毎月からお選びいただけます。



郵便局・銀行の口座への寄付

日本赤十字社では郵便局(ゆうちょ銀行)や銀行などで寄付専用口座を開設しております。



お近くの日本赤十字社窓口で寄付

お住まいの都道府県にある全国47箇所の日本赤十字社支部窓口でもご寄付を受け付けております。また、自治会、町内会等を通じたご寄付についても、地域の防災・減災活動やボランティア育成等に活用しています。



スマホアプリ

J-Coin Pay「ぼちっと募金」を使って寄付

みずほ銀行や全国140以上の金融機関で口座をお持ちの方は、スマホ決済アプリ「J-Coin Pay」からご寄付いただけます。



カードのポイントで寄付

クレジットカードでの買い物や、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用して、ご寄付いただけます。



コンビニで寄付

コンビニエンスストアにある情報端末(ファミリーマート「Famiポート募金」、ローソン「Loppi募金」)で、ご寄付いただけます。

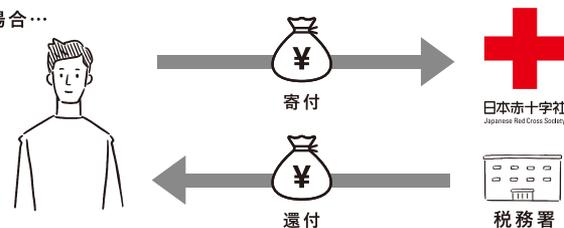


寄付方法の詳細は、日本赤十字社Webサイト「寄付する」のページをご覧ください。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の優遇措置を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

$$A: \text{年間所得総額} - B: (\text{寄付金額}^* - 2,000\text{円}) = C: \text{所得税課税対象額}$$

※ただし、寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社のホームページ又は、各都道府県支部までお問い合わせください。

※寄付などの協力に際して取得する個人情報は、日本赤十字社の広報活動や事業資金などの募集のためにのみ使用します。詳しくは、日本赤十字社Webサイトをご確認ください。